

助成:文化庁文化芸術振興費補助金[統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)]
独立行政法人日本芸術文化振興会 事業名:JAPAN LIVE YELL project



JAPAN LIVE YELL project in CHUBU

「やさしい日本語」による落語報告書

にほんご

らくご

ほうこくしょ

発行:愛知県芸術劇場 (公益財団法人 愛知県文化振興事業団)

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 TEL(052)211-7552 <https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

編集・デザイン:tami graphic design.

2024年1月

JAPAN LIVE YELL
Projectは、コロナ禍からの
文化芸術活動の再興を支援するため、
公益社団法人日本芸能実演家団体
協議会が、文化庁の補助を受け、
全国で展開したプロジェクトです。
愛知県芸術劇場は、4年目となる23
年度も圏域（愛知・岐阜・三重県内）
の劇場と連携し、11か所で「やさしい
日本語」による落語公演等を開催
しました。

今後も、圏域の劇場が連携し合い、
芸術文化の灯をともし続けることが
大切と考え、この報告書を作成しま
した。多くの方と本プロジェクトの
知見を共有できますと幸いです。

愛知県芸術劇場
館長 浅野芳夫



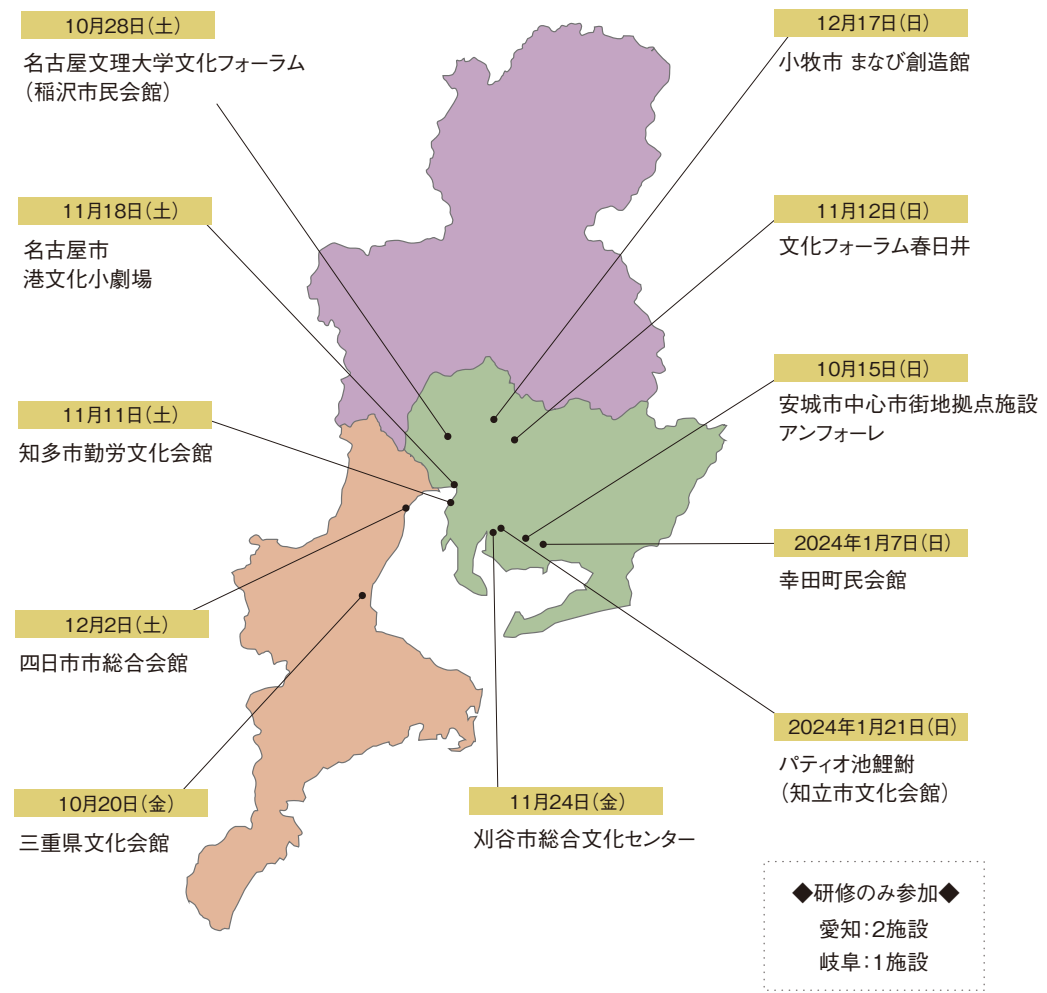
落語家 桂 かい枝

落語家・文化庁文化交流使・大阪樟蔭女子大学客員教授。
高崎経済大学卒。2004年咲くやこの花賞・文化庁芸術祭演芸部門新人賞、05年
NHK新人演芸大賞落語部門大賞、06年第1回繁昌亭大賞爆笑賞、10年第5回繁
昌亭大賞創作賞、14年エジンバラ フェスティバル フリンジで5つ星、16年第11回繁昌
亭大賞奨励賞、18年第13回繁昌亭大賞、ほか。古典・新作はもちろん、日本独自の笑芸
落語の魅力を世界の人たちにも伝えたいと、1997年より、英語落語による海外公演に
出演、これまでに世界28か国108都市で300回を超える公演を行っている。

このたびは、愛知県芸術劇場さんのお声かけで、東海
地方の11か所で「やさしい日本語」による落語（公演）の
機会をいただきました。どの会場にも、たくさんの方の外国
の方が来てくれて、私にとっても、一つひとつがとても
楽しい会となりました。

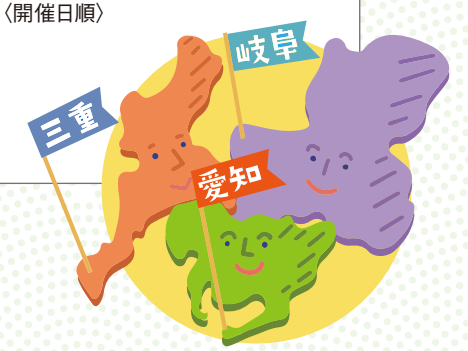
「笑い」は、魔法の杖のように、その場にいるみんなの
「心の壁」をたちまち取り払うことができます。私の
落語をとおして、外国の方には、国や言葉やそれぞれの
文化を超えて、日本の笑いを楽しんでいただきたいのは
もちろんのことですが、実は、日本人の皆さまには「やさ
しい日本語」が日本にお住まいになる外国の方との優
れたコミュニケーションツールであることを、知っていただき
たいと思っています。これから、ますます、グローバルに
なっていく日本で、外国の方に伝わりやすい話し方は、
日本人にも伝わりやすい話し方です。今回は、たくさんの方
子どもたちも来てくれました。落語の言葉は少し難し
いですが、やさしい日本語でお話することで、小学校
低学年の子どもたちもたくさん笑っていただきました。

少しの工夫で、日本で暮らすすべての人が、同じように
コミュニケーションがとれるようになれば、落語家としても、
日本人としても、とても嬉しいです。



愛知・岐阜・三重の東海3県は、中京圏や中部圏とも呼ばれ、経済的にも生活的にも同じ都市圏内にあります。舞台芸術ファンも圏内を流動することから、圏内劇場同士の情報共有は重要で、劇場職員間のネットワークが20年以上にわたって「緩やかに」構築されています。

本プロジェクトでは、下図のような体制のもと、劇場職員向けのインリーチ公演や研修を実施するなどして、交流の機会を設けながら、ネットワークの深化に努めました。



トヨタエンタプライズ・キャッチネットワーク
共同企業体
安城市中心市街地拠点施設
アンフォーレ
コーディネーター
品川 佳代



普

段からの連携体制が集客のカギに

アンフォーレは、賑わい創出を目的として設置された複合施設です。付帯する多目的ホールでの公演でしたが、毛せん・金屏風が無く、L字スタンドをめくり代わりに使うなど設営の苦勞がありました。そしてツアー初日というプレッシャー。中でも一番苦勞したのは外国人の集客です。チラシを見る習慣が無い、チケットシステムが日本語、日曜は宗教活動があるなど、今までの広報活動では息詰まっていたところ、普段から連携を密にしている外国人支援団体「Anjoy」も「だち」のつながりや、職員の地道な声かけにより、多くの外国人の方にご来場いただきました。

事前講習では他館との連携もでき、伝統と多様性をからめた本プロジェクトは、今後の文化事業企画に一石を投じるものでした。



来

場しやすい会場を考える

四日市公演は、日頃、公演を実施する文化会館ではなく四日市市総合会館を会場にしました。

外国の方が一度は行ったことがある市役所や、情報提供や交流活動を行っている当財団の国際交流センターなどの近くを会場にすることで、来場しやすくなるのではないかと考えたからです。

研修や会議で使われる部屋を会場にしたところ、5か国（インドネシア・台湾・パラグアイ・バンングラデシュ・ベトナム）からのお客様のほか、やさしい日本語に興味のある日本の方もお越しになり、楽しんでいただけました。

外国の方を対象に催事を行うことよって、財団・市役所・様々な団体と連携するキッカケも生まれました。さらに活かして進めていければと思っています。

公益財団法人
四日市市文化まちづくり財団
四日市市文化会館・
三浜文化会館
アートディレクター
油田 晃



一般財団法人 稲沢市文化振興財団
名古屋文理大学文化フォーラム
(稲沢市民会館)

友利 宇一



和

室開催の効果から、劇場の役割まで

当初は「特殊な企画」であると捉えていましたが、研修に参加することで「やさしい日本語」の理解が深まるだけでなく、劇場の役割を再認識する機会になりました。広報展開などの業務がつついルーティンワーク化してしまっているなか、目的を正確に想定して展開するという基本を実践することが必要だと大きな刺激となりました。

稲沢会場は対象者を稲沢在住の外国人や外国人に関わる組織の日本人に限定し、市内の日本語教室を運営する団体や国際友好協会にリサーチしたところ、留学生の支援団体と出会い、強い共感を得られたことが印象的でした。また、会場を和室に設定したことが今回のツアーのなかでも特徴的だったのではないかと思います。「落

語」の魅力効果を効果的に伝えることができるサイズ感であること、日本語を少しでも表現したいということから選択しました。今回のプロジェクトは公演制作、運営的な視点だけでなく、これまで明確にイメージできなかったインクルーシブ社会の実現に向けて「劇場が出来ること」を意識する大きなキッカケとなりました。



ツ

アー後半の実施時期を味方に

幸田町の取組みの特徴は、実施時期がツアー後半であったため、他館の取組みを知ったうえで、進行や交流会について検討する時間を確保することができたことです。

一例として、カゲアナや司会にやさしい日本語を使うことで、来場者に公演の

趣旨を伝えることができました。公演終了後は交流会として、高座の前で桂かい枝師匠との写真撮影、お祭りをイメージした射的とお菓子のつかみ取りを実施し、雰囲気づくりの一助としました。これらにより来場者に楽しんでいただくことができたと思います。

しかし、来場者の多くは日本人であり、外国人は2名という結果に終わり、在住外国人への広報、集客の難しさが課題として残りました。周知活動の途中で、このことに気づいたため、後半は家族層をターゲットに追加しました。結果、公演内容が落語入門ということでもマッチし、今後の主催事業を展開していく上で、新たなファン層を獲得することができました。

幸田町文化振興協会
幸田町民会館

総務グループ グループリーダー
草次 浩昭



研修の成果を活かして
それぞれの施設が
「やさしい日本語」でチラシを
作りました。



〈開催日順〉



安城市中心市街地拠点施設
アンフォーレ



知多市勤労文化会館



文化フォーラム春日井



三重県文化会館



名古屋文理大学文化フォーラム
(稲沢市民会館)



名古屋市港文化小劇場



刈谷市総合文化センター



四日市市総合会館



小牧市 まなび創造館



幸田町民会館



パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)

「この事業の成果は、外国人にとって劇場は、自分がここにいたいんだ」と居場所として認識してもらうこともあり、時間がかかります。これからも「劇場」は多文化共生社会の実現に向けて多彩な団体と「文化的連帯」を形成し、人とのつながりを広く緩く編んでいけることを期待します。



閔 鎮京

MIN Jinkyung

北海道教育大学准教授

みななが落語を心から楽しんでいました。劇場は国籍などに関係なく隣の人と二緒に笑って良いのです。

このような場を作るために、事業担当者は並々ならぬ努力を傾けました。事業の実施前に在住外国人に対する理解を深めるため、4回の講座を受け自己研鑽に努めました。また国際交流協会・日本語学校・外国人コミュニティ等、外国人に情報を届けられるなら、どこでも扉をたたいたのです。一方で各劇場の事業担当者同士が連携の良さを活かし、お互いが持っているノウハウなどを共有して目的を追求する姿に感動しました。

伝わりやすい日本語研修 日程

- 2023年
4月25日(火)
13:30-16:00

●趣旨説明、自己紹介、事務説明
●レクチャー「圏域の外国人住民の現状／伝わりやすい日本語」

講師：岩本 久子(公益財団法人 名古屋国際センター)
- 2023年
5月16日(火)
13:30-16:00

●インリーチ公演+質疑応答
講師：桂 かい枝(落語家)

●事例紹介「伝わりやすい日本語でチラシをつくってわかったこと」

講師：小出 充訓(愛知県芸術劇場)
- 2023年
6月9日(金)
13:30-16:00

●事例発表「可見市文化創造センターalaの多文化共生プロジェクトに携わって」

講師：鹿目 由紀(劇作家・演出家／劇団あおきりみかん)

●事例発表「外国人を外国人と呼ばないまちづくり～演劇ワークショップ「にほんごであそぼう」を通じて繋がった人と人」

講師：河崎 栄里子(特定非営利活動法人 小野市国際交流協会)
- 2023年
7月11日(火)
13:30-16:00

●レクチャー「日本人と外国人が地域で共に暮らすために文化芸術ができることは？」

講師：閔 鎮京(北海道教育大学)

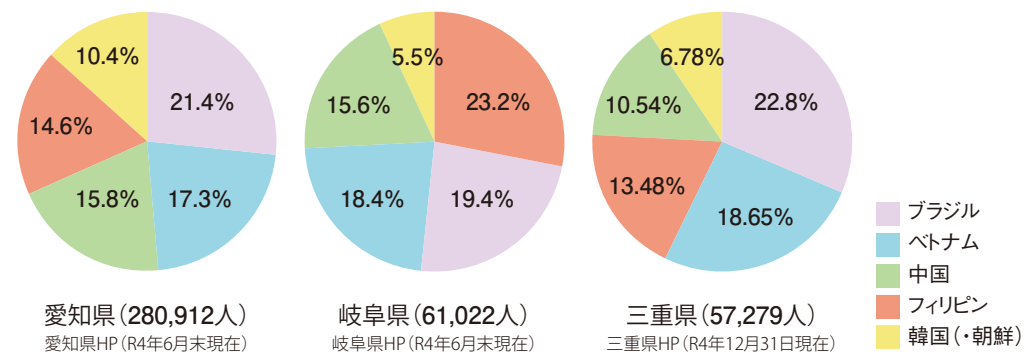
●レクチャー「外国人住民への広報～各国のコミュニケーションツール～」

講師：閔 鎮京、岩本 久子

●情報交流
「劇場・音楽堂等における『在住外国人の文化芸術活動』の実態調査結果」
「各ホールのチラシづくりの工夫」

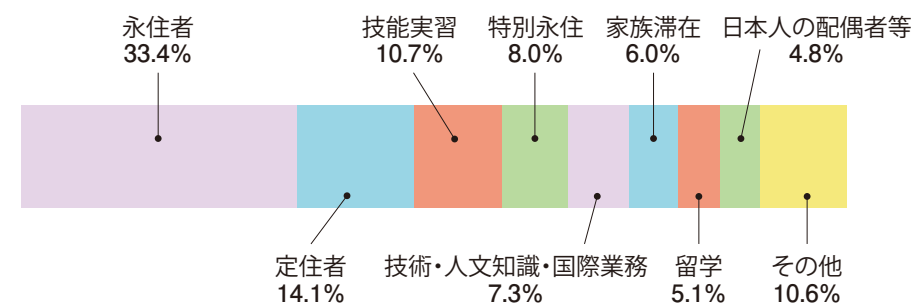


愛知県、岐阜県、三重県に暮らす外国人数



在留資格等別在留外国人の人口(愛知県)

法務省「在留外国人統計」(R4年12月末現在)



外国人住民の日本語能力

「第3次名古屋市多文化共生推進プラン策定調査結果報告書」(R3年3月)より

不自由ない・ほとんど困らない	32.4%
日常会話ができる	35.7%
単語ならわかる	21.4%
ほとんどできない	8.3%

英語より、日本語のほうが
理解しやすい人は7割!



伝わりやすい日本語研修 講師
公益財団法人 名古屋国際センター
岩本 久子さん